

地下部環境制御マニュアル

過程	時期	月日	目的	灌水方法	管理の視点	調査等
定植		10月頭	事前に水分維持		十分量の事前灌水	－
活着	定植3-4日程度		水分を保ち発根の促進	手灌水 チューブ灌水	手灌水による垂直浸透 又はチューブ灌水	－
根張り優先			水を制限し地上部の生育を抑制 （気温を下げる）	量の制限	気象に応じて、最小量（光合成は維持） （日射弱・高昼温・高夜温の条件に対応）	－
親つる摘心	定植14-21日後	10月3週	灌水の増加で側枝発生の促進	チューブで畦全面へ灌水	十分量の灌水 （指標とする p F 値1.5）	
収穫開始 側枝伸長抑制 又は促進させ摘心	1か月後	11月	果実の肥大促進 側枝の伸長抑制 又は 摘心前提で側枝伸長促進	気象・着果に応じた灌水 水量の調節 温水の利用	気象・生育調査に基づく適量の灌水（指標とする p F 値1.5-1.7とし変動幅を小さくする） 夜温抑制又は夜温の確保	展開速度、開花位置
	低日照期 厳寒期	12月 ～1月中旬	土壌水分の安定	日射に応じた灌水量 （減らす→維持）	日照・生育調査に基づく適量の灌水 （指標とする p F 値1.5-1.7）	生育調査（展開速度、開花位置、収穫位置、開花節（4節）葉幅） 環境調査（土壌pF、以下参考湿度、温度、炭酸ガス） 出荷量
収穫量増加		1月下旬～ 3月上旬	水を不足させない土壌水分と 土壌 E C の維持	日射に応じた灌水量 （増やす）	生育調査に基づく適量の灌水 （地下深部(10cm以深）への浸透させる、 p F 値1.5-1.7 目安1株2.5-3L程度 硝酸態窒素の吸収上昇に応じた液肥施用、倍率への注意と硝酸態窒素の加用）	
	開放期	3月中旬～ 4月中旬	十分量の土壌水分の確保と 土壌 E C の維持 湿度対策（湿度確保のためのミスト又は強日射の遮光）	日射・生育に応じた灌水量（増やす）		
収穫盛期		4月下旬以降	湿度維持の灌水と 畦内への十分量の灌水 土壌 E C の維持	日射・生育・湿度に応じた灌水量（増やす）	生育調査に基づく適量の灌水 （複数回/日の灌水・通路に散水し湿度を供給する）	